

古河市SDGsパートナー宣言書

団体名・企業名 有限会社高橋農園

代表者職・氏名 代表取締役 高橋恭嗣

次のとおり古河市とともに持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献することを宣言します

1：目指しているSDGsのゴール（または今後目指すゴール）【複数選択可】

					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
					
					<input type="checkbox"/>
					※該当するゴールに○を記入してください
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

2：SDGsへの貢献に向けた組織を代表するビジョン・団体の方針

弊社の主たる事業内容である原木しいたけ栽培を通じ、SDGsに関する各項目に賛同する他、特に、地球温暖化防止に通じるCO2排出量の削減を目的とした各種取組を行います（バイオマス暖房機、太陽光発電、節電機器の導入）。
そして、今後、CO2排出量の削減の取組をさらに前進させた「止めよう！地球温暖化 カーボンマイナスとCCUS」事業に取り組み、脱炭素をさらに推し進める予定です。

3：SDGsへの貢献や、持続可能な都市の実現に向けて行っていること

化石燃料を使用しないバイオマス暖房機の利用（CO2排出量の削減）、原木しいたけのソーラーシェアリング（CO2排出量の削減）、事務所照明のLED化（CO2排出量の削減）

古河市や他の団体と連携可能な項目【複数選択可】

※該当するものにチェックをしてください。

- | | |
|---|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ボランティア | <input type="checkbox"/> 研修会・講演会の実施 |
| <input type="checkbox"/> 知識・技術の提供 | <input type="checkbox"/> 実証事業の実施 |
| <input type="checkbox"/> イベント開催 | <input type="checkbox"/> 寄付金・商品等の提供 |
| <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 他団体や専門家との意見交換など ） | |

SDGs に関する取組を表す写真等の画像データ

2306高橋農園・パンフレット.docx

(有)高橋農園の 原木栽培 しいたけ



- ① 当農園は、茨城県古河市で4世代 70年に渡って原木しいたけ栽培をしています。
- ② 希少性の高い、かつ美味しい、原木栽培で生産したしいたけをご賞味ください。
- ③ 農薬は全く使用していません(栽培期間中:農薬不使用)。化学肥料も使用していません。
- ④ 原木しいたけ生産者としては、全国で有数の生産規模です。
- ⑤ ほぼ毎月、放射性セシウム検査を行うなど、放射性物質対策は万全です。
- ⑥ しいたけの包装資材(袋)では、しいたけ 100g当たりプラスチック約 2gと、プラスチックの削減に取り組んでいます。
- ⑦ 原木のソーラーシェアリングを実施して、脱炭素に取り組んでいます。
- ⑧ しいたけ栽培ハウスの暖房では、化石燃料を使わずバイオマス燃料を使用し、脱炭素に取り組んでいます。
- ⑨ さらに一歩進んだ脱炭素への取組として、使用済みホダ木のCCUS(大気中CO₂を農地に閉じ込める画期的な脱炭素事業)に取り組む予定です。

問合せ先

(有)高橋農園

代表取締役 高橋恭嗣(やすし)

〒306-0201 茨城県古河市上大野 513-5

TEL0280-97-1070 FAX0280-97-1071

e-mail ty2020@kogonet.ne.jp

<https://Takahashi-nouen.cp.jp>



高橋農園の原木しいたけ栽培の特徴

- ① 高橋農園は現社長が生まれる前から原木しいたけ栽培をしています。
- ② 現在、日本や中国で生産されているしいたけのほとんどは「菌床栽培」と呼ばれる方法で生産されています。原木栽培のしいたけは手間がかかり、かつ、重労働であるため、日本国内の生しいたけのシェアでは約 7%程度(世界全体では 1%)しかない、大変希少性の高いものです。(ただし、乾し椎茸では、日本国内では、原木栽培の方がシェアは高いです。) 中国で生産されているしいたけは、ほぼすべて菌床栽培です。
また、最近、菌床椎茸に関しては、日本ではなく中国で植菌した菌床を日本に輸入し栽培・収穫しているにもかかわらず「日本産」としてしいたけを販売する事例が増え、問題となっていました。
- ③ 高橋農園では、栽培期間中(植菌から収穫前後、出荷の全て)において、全く農薬を使用しておりません。また、化学肥料も、全く使用しておりません。
- ④ 高橋農園の栽培規模は日本国内で 10 番目以内の栽培規模です。
- ⑤ 東日本の多くの地域で、東京電力原子力発電所事故による放射性物質被害があり、特に、原木栽培しいたけではその影響が大変大きいものでした。小職は(一社)東日本原木しいたけ協会の事務局長として、その被害対策に取り組んでいます。
 - 上記の被害対策に取り組んでいるため、原木しいたけに関わる放射性物質被害に関しては熟知しており、その対応策も万全を期しています。
 - 高橋農園では、しいたけの放射性セシウム検査を毎月行っています。(ほとんどがNDです)
 - 栽培に使用する原木は、岩手県北部、長野県、大分県など被害のない地域から購入しています。原木のロット分け管理を行い、万が一の場合でも、悪影響を最小限になるようにしています。
- ⑥ 通常出荷する生しいたけの包装には、トレーではなく袋を用いています。これによりトレーの場合の半分以下のプラスチック重量となり、しいたけ 100g当たりでは約 2gとなっています。
- ⑦ 2017 年から原木しいたけのソーラーシェアリング(約 40kw)を行っています。
- ⑧ 30 年以上前から、しいたけ栽培に使用するビニールハウス等の暖房では、その燃料に使用済みのホダ木を用いており、化石燃料は、全く使用していません。その分だけ、脱炭素化になっています。(=バイオマス暖房)
- ⑨ 【カーボンマイナス】高橋農園では、化石燃料の代替燃料としての、暖房用燃料として使用しています。
今後、さらに、その取組を発展拡張し、使用済みホダ木を炭にして畑等に施用することによる「CCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage。CO₂ の畑への貯留)」に取り組む予定です。これは、大気中のCO₂を減少させる画期的な事業です。(原木しいたけでは、原木林は伐採された後、再度萌芽して元の原木林に戻ります。この際、光合成を行い大気中のCO₂を吸収するので、使用済みホダ木を炭にして畑に貯留すれば、その分だけ大気中のCO₂を減少させることとなります)